



## 平成31年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年10月5日

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス

上場取引所 東

コード番号 9861 URL <http://www.yoshinoya-holdings.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴

問合せ先責任者 (役職名) グループ財務経理本部長 (氏名) 鶴澤 武雄

TEL 03-5651-8800

四半期報告書提出予定日 平成30年10月9日

配当支払開始予定日

平成30年11月7日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年2月期第2四半期の連結業績(平成30年3月1日～平成30年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第2四半期	100,339	2.7	55	97.4	332	86.4	850	
30年2月期第2四半期	97,689	4.5	2,136	126.1	2,448	107.7	1,290	18.0

(注) 包括利益 31年2月期第2四半期 1,232百万円 (%) 30年2月期第2四半期 1,165百万円 (745.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第2四半期	13.18	
30年2月期第2四半期	19.99	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年2月期第2四半期	115,685	56,066	48.0
30年2月期	115,613	57,807	49.5

(参考) 自己資本 31年2月期第2四半期 55,517百万円 30年2月期 57,263百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期		10.00		10.00	20.00
31年2月期		10.00			
31年2月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成31年2月期の連結業績予想(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	205,000	3.3	1,100	72.6	1,700	63.1	1,100		17.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年2月期2Q	65,129,558 株	30年2月期	65,129,558 株
期末自己株式数	31年2月期2Q	555,640 株	30年2月期	580,561 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年2月期2Q	64,558,382 株	30年2月期2Q	64,532,201 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(セグメント情報等)	P. 11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成30年3月1日から平成30年8月31日まで)の連結業績は、連結売上高が1,003億39百万円(前年同期比2.7%増)、連結営業利益55百万円(前年同期比20億81百万円減)、連結経常利益3億32百万円(前年同期比21億16百万円減)、親会社株主に帰属する四半期純損失は8億50百万円(前年同期比21億40百万円減)と増収・減益となりました。

売上高は主力事業である吉野家の既存店売上高が好調に推移したことや、積極的に出店を進めている、はなまる・京樽・海外セグメントの売上高が増加したことにより増収となりました。一方で営業利益は、肉・米を中心とした食材価格の高騰や、人手不足やアルバイト・パート時給の上昇などもあり人件費が増加したことにより減益となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損失は、店舗の撤退等による減損損失を5億11百万円を計上したことにより減益となりました。厳しい経営環境ではございますが、グループ以外の企業と共同販促を行うことや、付加価値の高い商品や季節商品の投入を積極的に行うことで、集客を図ってまいります。原価・経費につきましては、取り扱う原材料の品目数の適正化を図り、在庫管理を容易にすることでロスを軽減することや、継続して、労働時間数の適正化を図るために、吉野家全店でPOSレジを交換し、バーコードおよび自動釣銭機を導入いたします。引き続き働きやすい環境を提供し、あわせて従業員教育を行いながら、サービスの価値と労働生産性を高め収益性を回復してまいります。

当社グループでは、2025年を最終年度とした長期ビジョン「NEW BEGINNINGS 2025」の実現を目指し、「3カ年中期経営計画」が進行しており、当期を含むファーストステージの3年間は、セカンドステージ以降における成長のシーズを生み出す3年間と位置付け、「ひと・健康・テクノロジー」をキーワードに、「飲食業の再定義」を目指し、これまでの飲食業になかった新しい価値創造に向け活動しております。ファーストステージの最終年度となる当期につきましては、拡大期と位置づけているセカンドステージに向け、主要セグメントである吉野家において、検証中の新サービスモデルの完成を目指すとともに、はなまる・京樽及び海外セグメントにおいては出店による成長・規模拡大を引き続き進めてまいります。

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

#### [吉野家]

売上高は、508億42百万円と、対前年同期比4.7%の増収となりました。

増収の主な要因は、下記の通り様々な施策により既存店が順調に推移したことであり、販売促進活動として、4月に「はなまる」とのコラボ企画「毎日80円引き!定期券」を販売、5月に約800店舗で「金のオリジナルグッズ」がもらえる「スタンプキャンペーン」や「LINE学割キャンペーン」を実施、8月には吉野家としては初の試みとなる「お子様半額キャンペーン」を実施いたしました。また商品施策として、3月に「新味豚丼」、4月には「鶏すき丼」と豚肉や鶏肉を使った商品を導入し、夏季には、夏の定番となった「麦とろ牛皿御膳」「鰻重」「おろし牛カルビ丼」等、季節商品を導入、さらに「吉野家の晩ごはん」の第3弾として「炙り塩鯖定食」、第4弾として「さんま炭火焼き定食」を販売することで時間帯別のお客様の多様なニーズにもお応えいたしました。これら新規顧客の獲得と既存顧客の来店頻度向上を図った結果、既存店売上高は4.0%前年を上回っております。また、新規顧客の獲得と労働生産性向上や従業員の労働負荷の軽減を目的として、次世代の店舗フォーマット創りの実験を行っており、セカンドステージ以降の店舗改装に向け、今期中の新サービスモデルの完成を目指します。セグメント利益は、既存店売上高が好調に推移し増収したものの、原材料価格の高騰や人件費の増加等により12億43百万円と、対前年同期比36.8%の減益となりました。同期間の店舗数は、19店舗を出店し、14店舗を閉鎖した結果、1,205店舗となりました。

#### [はなまる]

売上高は、148億21百万円と、対前年同期比8.9%の増収となりました。

増収の主な要因は、積極的な出店に伴う店舗数の増加であります。ファーストステージにおいては、事業規模の拡大を図り500店舗体制を目標に出店を進めております。販売施策として3月15日に1日限定で「温玉ぶっかけ」半額キャンペーンを実施、4月にはコラボ企画として、吉野家との相互送客を図るべく「天ぷら定期券」を販売、さらにアイドルグループとのコラボ企画で第一位に選ばれた「ハニーマスタードチキンサラダうどん」を販売する等、新規顧客の獲得と来店頻度の向上を図ることができました。加えて季節商品として、5月には香川県の名産品のひとつであるそうめんを「うどん県のそうめん」と銘打ち販売、6月には夏の元気とろ玉フェアとして「とろ玉めかぶぶっかけ」を、8月に

は夏の肉うどんフェスとして「ガッツリ肉ぶっかけ」「ピリ辛肉ざる」を販売し、季節にあったお客様の様々なニーズにお応えいたしました。今後もお客様満足度の向上につながる販売促進および商品開発に努めてまいります。セグメント利益は、店舗数の増加等により増収したものの、既存店売上高が前年未達であったことや、物流コストの高騰等の影響により、7億69百万円と、対前年同期比24.3%の減益となりました。同期間の店舗数は、20店舗を出店し、6店舗を閉鎖した結果、493店舗となりました。

#### [アーケミール]

売上高は、103億36百万円と、対前年同期比10.1%の減収となりました。

減収の主な要因は、ステーキ・しゃぶしゃぶ業態における競争が激化し既存店売上高が低迷したことや、店舗数が減少したことによるものであります。キャンペーン施策としては、ご好評をいただいている「肉の日」をお子様と楽しめるイベントにブラッシュアップしたことや、全業態でGW限定メニューの販売や、女性限定デザート食べ放題の「母の日キャンペーン」を実施いたしました。既存業態の客数回復策として、3月から「フォルクス」において、3つのバーをリーズナブルに堪能できる「4 Value Lunch」の導入や、「ステーキのどん」において、サラダやドリンクバー等をお楽しみ頂ける、お得な「セットメニュー」を導入いたしました。また、夏フェアメニューとして「フォルクス」では、「夏の和風サーロイン」、「ステーキのどん」では「夏のリブロイン 刻みねぎレモンソース」、「どん亭」では「藻塩レモンだしの牛たんしゃぶしゃぶ」を販売いたしました。しかしながら、減収によりセグメント損失は、3億43百万円と、前年同期に比べ5億53百万円の減益となりました。同期間の店舗数は、1店舗を出店し、2店舗を閉鎖した結果、177店舗となりました。

#### [京樽]

売上高は、136億85百万円と、対前年同期比2.4%の増収となりました。

増収の主な要因は、首都圏に積極的に出店を行っております回転寿司店「海鮮三崎港」の増加や、テイクアウト事業の活性化策として江戸前鮓を強化した「京樽・すし三崎港」併設店による売上高の伸長に加え、ご好評をいただいているテイクアウト事業における「中巻セール」や“ハレの日”の各セール、外食事業における「本まぐろ祭」「(店長おすすめ)99円セール」「39円セール」を効果的に実施したことにより既存店売上高が前年を上回ったこと等であります。また、回転寿司業態では、産地指定した旬の食材を用いた商品を販売するなど差別化を図りました。セグメント利益は、原材料価格の高騰や改装による一時費用の増加等により1億90百万円と、対前年同期比31.5%の減益となりました。同期間の店舗数は、12店舗を出店し、13店舗を閉鎖した結果、329店舗となりました。

#### [海外]

売上高は、102億12百万円と、対前年同期比7.2%の増収となりました。

増収の主な要因は、アメリカ、台湾の売上高が好調に推移したことや、フランチャイズも含めた積極的な出店により店舗数が増加したことによるものであります。セグメント利益は、中国で人件費が増加したこと、各エリアで原材料価格が高騰したことや、出店や改装に伴う減価償却費が増加したことにより、3億14百万円と、対前年同期比53.2%の減益となりました。同期間の店舗数は、52店舗を出店し、14店舗を閉鎖した結果、859店舗となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ72百万円増加し、1,156億85百万円となりました。これは主として、原材料及び貯蔵品の11億円増加、現金及び預金の23億37百万円減少により流動資産が16億18百万円減少したことと、出店等により固定資産が16億90百万円増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ18億13百万円増加し、596億19百万円となりました。これは主として、長期借入金が増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ17億41百万円減少し、560億66百万円となり、自己資本比率は、前連結会計年度末比で1.5ポイント減少し48.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年2月期の連結業績予想(平成30年3月1日～平成31年2月28日)は、既に公表しておりますものから修正は行っておりません。なお、当該業績予想は、当社グループが現時点までに入手可能な情報から判断して、合理的であるとした一定の条件に基づいたものです。実際の業績は、「天候」「景気動向」等の様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,913	19,576
受取手形及び売掛金	5,764	4,353
商品及び製品	2,765	2,861
仕掛品	35	63
原材料及び貯蔵品	2,943	4,043
その他	3,706	4,609
貸倒引当金	△4	△2
流動資産合計	37,124	35,506
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	29,402	30,123
その他(純額)	17,209	17,518
有形固定資産合計	46,611	47,642
無形固定資産		
のれん	1,405	1,453
その他	2,696	2,784
無形固定資産合計	4,102	4,238
投資その他の資産		
投資有価証券	4,546	5,424
差入保証金	15,693	15,719
繰延税金資産	1,950	1,800
その他	5,786	5,530
貸倒引当金	△202	△175
投資その他の資産合計	27,775	28,299
固定資産合計	78,489	80,179
資産合計	115,613	115,685

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,985	6,423
短期借入金	5,805	6,223
1年内返済予定の長期借入金	6,465	7,389
リース債務	1,037	1,042
未払法人税等	1,011	276
賞与引当金	1,493	1,225
役員賞与引当金	24	15
株主優待引当金	268	278
資産除去債務	24	34
その他	11,564	10,416
流動負債合計	33,681	33,327
固定負債		
長期借入金	17,439	19,667
リース債務	2,315	2,264
退職給付に係る負債	648	629
資産除去債務	2,708	2,772
その他	1,012	956
固定負債合計	24,124	26,292
負債合計	57,805	59,619
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,534	11,585
利益剰余金	38,236	36,740
自己株式	△712	△682
株主資本合計	59,324	57,909
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7	1
為替換算調整勘定	△2,040	△2,366
退職給付に係る調整累計額	△28	△27
その他の包括利益累計額合計	△2,061	△2,392
非支配株主持分	544	549
純資産合計	57,807	56,066
負債純資産合計	115,613	115,685

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
売上高	97,689	100,339
売上原価	33,975	35,922
売上総利益	63,713	64,416
販売費及び一般管理費	61,577	64,361
営業利益	2,136	55
営業外収益		
受取利息	19	17
受取配当金	187	125
賃貸収入	201	171
持分法による投資利益	47	61
雑収入	253	362
営業外収益合計	708	737
営業外費用		
支払利息	101	84
為替差損	37	66
賃貸費用	142	112
雑損失	114	196
営業外費用合計	396	460
経常利益	2,448	332
特別利益		
固定資産売却益	0	0
関係会社株式売却益	0	-
特別利益合計	1	0
特別損失		
減損損失	252	511
契約解約損	21	8
特別損失合計	274	520
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	2,175	△187
法人税、住民税及び事業税	769	397
法人税等調整額	121	307
法人税等合計	891	705
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,284	△892
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△5	△42
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,290	△850

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,284	△892
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	△6
為替換算調整勘定	△119	△272
退職給付に係る調整額	0	1
持分法適用会社に対する持分相当額	2	△61
その他の包括利益合計	△118	△339
四半期包括利益	1,165	△1,232
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,172	△1,181
非支配株主に係る四半期包括利益	△6	△50

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	2,175	△187
減価償却費	3,028	3,183
のれん償却額	106	105
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△28
賞与引当金の増減額(△は減少)	13	△265
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△54	△8
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△11	9
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	0	△17
受取利息及び受取配当金	△206	△142
支払利息	101	84
持分法による投資損益(△は益)	△47	△61
固定資産売却損益(△は益)	△0	△0
減損損失	252	511
売上債権の増減額(△は増加)	△699	1,396
たな卸資産の増減額(△は増加)	44	△1,241
仕入債務の増減額(△は減少)	966	459
未収入金の増減額(△は増加)	△425	89
未払消費税等の増減額(△は減少)	△605	△432
その他	390	△692
小計	5,029	2,762
利息及び配当金の受取額	256	150
利息の支払額	△96	△81
法人税等の支払額	△786	△1,685
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,402	1,146

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△134	△7
定期預金の払戻による収入	515	462
有形固定資産の取得による支出	△4,265	△4,159
有形固定資産の売却による収入	22	38
無形固定資産の取得による支出	△363	△415
資産除去債務の履行による支出	△128	△53
差入保証金の差入による支出	△437	△366
差入保証金の回収による収入	379	216
貸付けによる支出	△64	△266
貸付金の回収による収入	77	120
関係会社株式の取得による支出	△3	△809
その他	0	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,402	△5,241
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△601	△626
短期借入金の純増減額(△は減少)	△11	512
長期借入れによる収入	5,500	6,500
長期借入金の返済による支出	△4,020	△3,349
社債の償還による支出	△750	-
配当金の支払額	△643	△643
その他	△2	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△527	2,391
現金及び現金同等物に係る換算差額	△50	△118
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△578	△1,822
現金及び現金同等物の期首残高	22,941	19,573
会社分割に伴う現金及び現金同等物の減少額	△202	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,160	17,750

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	アーク ミール	京樽	海外	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	48,068	13,483	11,465	13,285	9,525	95,829	1,860	97,689	—	97,689
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	506	126	33	84	—	750	289	1,040	△1,040	—
計	48,574	13,610	11,499	13,370	9,525	96,580	2,149	98,729	△1,040	97,689
セグメント利益	1,965	1,015	210	277	672	4,141	43	4,185	△2,048	2,136

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社8社を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,048百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,093百万円、セグメント間取引消去132百万円及びのれんの償却額△87百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年3月1日至平成30年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	アーク ミール	京樽	海外	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	50,361	14,683	10,300	13,596	10,212	99,155	1,184	100,339	—	100,339
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	480	138	36	88	—	743	287	1,031	△1,031	—
計	50,842	14,821	10,336	13,685	10,212	99,898	1,471	101,370	△1,031	100,339
セグメント利益 又は損失(△)	1,243	769	△343	190	314	2,173	10	2,183	△2,128	55

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社9社を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,128百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,174百万円、セグメント間取引消去131百万円及びのれんの償却額△85百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。